



冬到来！インフルエンザに注意！

車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

【令和元年11月号】

《重点目標》『自立した品格を目指し 今何をすべきかを考え 実行しよう』

夢や希望の実現に向けて

南相馬市トップアスリート招聘事業 大山加奈さん講演会を実施しました

11月13日（水）、本校体育館において南相馬市教育委員会の令和元年度トップアスリート招聘事業の一環として、元女子バレーボール日本代表の大山加奈さんによる特別授業を実施し、一年生全員を対象にバレーボール体験授業、バレーボール部の指導、そして全校生を対象に「夢や希望の実現に向けて」というテーマで講演をしていただきました。



大山さんは、小学校・中学校・高校で日本一を経験し、高校で日本代表に選ばれ、20歳でオリンピックに出場した後、引退するまでの数年間は、けがに悩み思い通りのプレーができなかった選手時代を振り返り、栄光と挫折の両方を経験したバレーボール人生だったと話されました。生徒達は、バレーボールを通して夢を追い続けてきた大山さんの生き方に触れ、夢や希望をもつこと、そしてその実現に向けて頑張ることの大切さ、素晴らしさについて学びました。

<心に残った言葉>

- 自分より後からバレーボールを始めた妹が活躍する姿を見て、初めて悔しいという気持ちが芽生え、「妹に負けない」という小さな目標が生まれた。
- 小さな目標の実現に向けて練習を頑張ることで病気が治り、試合にも出ることができるようになった。目標に向かって頑張ると、いいことがたくさんある。
- 「日本一になりたい」という目標は、周りから笑われたが、頑張れば夢は叶うと信じて頑張った。夢を持つことや夢に向かって頑張ることは素敵なこと。そして友達の夢は決して笑わないこと。
- 目標を達成したいと思うのであれば、目標を達成するためにはどうしたらよいだろうかと自分で考え、行動し、応援してもらえる人になることが大事。
- 誰が見ていなくても、自分の行動は自分が知っている。
- 苦しいことがあったら周りの人に話す勇気をもつこと。周りの人の力を借りることは悪いことではない。
- 「誰かのために」と思うと、大きな力が出る。
- 484日のリハビリを経てのたった2分間の復帰戦がオリンピックに出たことよりも心に残っている。自分のために泣いてくれる人がいることを知って、こんなに幸せなことはないと思った。
- 友達が落ち込んでいたり、悲しい思いをしていたら、絶対に一人にしないで、一言、二言でもいいから声をかけてほしい。その言葉が勇気になる。
- 辛い時、苦しい時にそばにいてくれる仲間は、バレーボールを一生懸命頑張ったから手に入れることができた宝物だと思っている。
- 中学校時代を共に一生懸命頑張っている仲間は大人になったら必ず大切な存在になる。このことを忘れずに一日一日を大切に過ごしてほしい。
- 夢は絶対にかなうと言うことはできない。なぜなら、自分にもかなわなかった夢があるから。でも、かなわなかった夢に向かって頑張ったことが、今の自分の原動力になっている。たとえ夢がかなわなくても、その夢に向かって頑張ったことは絶対に力になる。
- 大きな夢、目標をもって頑張る人でいてほしい。



<大山さんの講演会に参加して>

一番心に残ったのは、周りの人に応援される人間になるということです。入学当初などは小学校で運動が地区トップでできたので調子に乗っていましたが、中学校卒業を間近にした僕は、志望校に向かって勉強に励んでいます。誰にでも応援されるように今からでも生活態度を改めていきたいと思いました。（3年男子）

一番心に残ったことは、自分の弱いところを見せることは悪いことではないということです。逃げ出したくなった時、周りの人に打ち明けることで、心が軽くなったり、違う解決策が見つかることもあるということが分かりました。また、どんな人も、成功と失敗を繰り返すことで強くなっていくということを学ぶことができました。何かうまくいかないことがあった時は、大山さんから学んだことを思い出したいです。（3年女子）

今回の講演は、夏休みに大山さんのお話を聴き感動した本校生徒の「ぜひ、鹿島中の皆にも聴かせたい」という思いが、ご本人に届いたことから実現したものです。「誰かのために」という思いを大切にしてくださったそのお人柄にも感銘を受けました。スケジュールの合間をぬって、遠方よりお越しいただいて講演をしていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。